

事業者向け

児童発達支援自己評価表(公表)

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	4	メンバーにより分かれて過ごしている。	よりよい環境を常に検討していく。
	2 職員の配置数は適切である	9	1	重心児利用の際の看護師等配置は出来た。充実している。	重心児利用が増えた場合、配置の課題あり。その時に対応策を考える。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	3	生活での基本的経験値を養う上で特に配慮はしていないが、バギー使用時の段差の解消はしている。	よりよい環境を常に検討していく。(車椅子の人には間口が狭い。改善が必要。)今年度より、バギーの方にはデイの部屋前で乗降してもらっている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	0	掃除は毎日次亜塩素酸でふき取っている。空間は広い。音楽中心の部屋と活動室に分けている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	0	適切である。今年度法人ぐるみで導入された。	来年度も実施する予定。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0	駐車場からの砂利道については、デイ建物前で野乗車についてご案内した。	支援時間の延長については、課題を残しているが検討はした。今後もしていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1	ホームページで公開している。	児童発達支援は今年度から公開する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	8		評価結果は真しに受け止め改善出来る事、要望については努力していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	出張も必ず一人1人は実施。月1回勉強会を実施している。	来年度も職員のスキルアップの為に研修、勉強会には積極的に参加する。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	0	後期から保護者との面談時間を取った。理学療法士や看護師からもアドバイスをもらっている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	3		よりよい形を常に検討していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	1	適切である。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10	0	個々のニーズに合わせて作成している。	後期から保護者との面談時間を取った。理学療法士や看護師からもアドバイスをもらっている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0	今年度は月別担当制にした。面白い企画も多く入れる事が出来た。職員で知恵を入れあった。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0	個別で集団に分けている。集団は毎週プログラムを変えている。生け花おやつ作り買い物支援等取り組ん	新しい活動プログラムも導入する。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10	0	個々のニーズに合わせて作成している。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	毎日の朝礼、月3回の個別支援会議、月1回のグループ会議で確認している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	0	その日のうちに記録には打ち込んでいる。翌朝の朝礼で振り返っている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	日誌や記録は毎日個人ファイルに記載(打ち込み)している。	
20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	0	利用時に個別支援をする中で見直し出来ている。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	1	担当が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	4	施設内に相談支援事業所があるので外部との連携が今後、より必要。	必要であれば連携する。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	5	健康面の情報は保護者よりお預かりしている。 一部利用者は保護者同席の為、特に主治医との連絡体勢は整えておりませんが囁託医との連絡体制は整えられている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	3	健康面の情報は保護者よりお預かりしている。 一部利用者は保護者同席の為、特に主治医との連絡体勢は整えておりませんが囁託医との連絡体制は整えられている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	3	必要があれば情報を共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	2	参観をさせてもらった。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	3	何かあれば必ず報告や相談をしている。助言も受けている。 施設内に相談支援事業所があるので外部との連携が今後、より必要。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	9		認定子供園の子供たちとの交流も必要かと思うが保護者に賛否があるので実施には検討が必要。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	9		必要であれば参加する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	1	母子同伴での利用としている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	7	事業所内で職員研修は行っているが、保護者の方々には行えていない。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	手紙を配布した。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10	0	要望書を配布し、個別支援計画案を作成。それを提示説明し、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	1	相談があれば載らせてもらっている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	8	現状はない。	保護者に賛否があるので難しい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	相談があれば載らせてもらっている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	0	メール、杜からのお知らせ、ナースコール等で知らせている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10	0	毎年同意書をもっている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	出来る限りわかりやすく工夫している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	2	平成30年度は施設の大規模修繕があり、あおば祭りは中止だったが、平成31年度は実施予定。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	1	新人職員研修、職員会でも周知している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	ヘルメット、防災ずきん等完備している。毎年一人2回は参加している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	1	保護者に確認し、周知している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	7	リスク管理は行っているが、保護者、医療機関との連携をより密に行っていく。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	1	本体に準じている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	1	職員会などで実施している。職員1名が虐待防止委員会に入っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	4	該当者がいないのでない。	命に関わるような怪我やリスクがある場合は、本体施設に準じる。